

令和5年 5月 26日

学校名 鈴鹿市立鼓ヶ浦小学校

学校長名 池畑 直哉

令和5年度 校内研究実施計画書

1 研究主題及び教科

研究主題	自ら考え、学びあう子どもの育成 ～わかりあう喜びを実感できる授業づくりを目指して～
教科・領域	国語科

2 主題設定の理由

本校では、学校教育目標「知・徳・体 調和のとれた子どもの育成」のもと、「(1)自分も他者も大切に作る子。『心豊かな子』」「(2)自ら学び、考えて行動する子。『学ぶ子』」「(3)地域に愛着と誇りを持つ子。『鼓の子』」を目指して日々の教育活動を行っている。

児童数は、年々減少傾向にあり、6学年全て単学級になっている。それゆえ、本校でも、固定化した人間関係や多様な考えに接する機会が限られてしまうといった小規模校特有の課題が存在している。特に、学習場面では、学年が上がるにつれてこれらの課題が顕著に表れる。また、「難しい問題は、あの子が答えてくれる」「この子に任せておけばうまく説明してくれるだろう」といった、他人任せで主体的に学習に取り組むことに苦手感を持つ児童がどの学年にも見受けられる。

平成29年度に施行された現行の小学校学習指導要領においては、『主体的・対話的で深い学びの実現』が求められている。教科指導においては、これまでのような教師主体の授業から、児童主体の授業への転換が求められている。つまり、児童が主体的に課題と向きあい、その解決方法を他者と関わりあいながら見出していくといった、アクティブな学習活動が重要視されている。まさに、本校の課題となっている、他人任せの学習からの脱却、そして多様な考え方に接する中でよりよい解決方法を見出していく、といった学習が求められているといえる。

令和4年度は「自ら考え、学びあう子どもの育成～わかりあう喜びを実感できる

授業づくりを目指して～」を研究主題とし、算数科において、6学年で公開授業を行った。

「自ら考える」姿を目指すために、導入では前時と本時の学習課題の相違点を見つけさせたり、既習事項を想起させたりする等を取り入れた。そうしたことで、課題を把握したり、課題解決に向けた見通しを持ったりすることができ、自ら考えることに意欲的な姿勢を見せる児童が増えたと感じる。

その一方で、基礎学力が不十分な児童については、基礎的な計算できえ、つまずいてしまうことで、学習意欲の低下につながっていたことが課題である。

また、「学びあう」姿を目指すために、ペア活動やグループ活動等を取り入れ、話し合い活動を重視して取り組んできた。「話し合いのルール」や「きくこと」「話すこと」を提示し、話し合いにおける目的や目指す姿を明示したことで、積極的に自分の意見を伝えようとしたり、友だちの意見をきこうとしたりする児童が増えたと感じる。

その一方で、自分の意見が持てなかったり、自信が持てなかったりして、伝えることに消極的になる児童の姿も見られたことが課題である。

副主題にある「わかりあう喜びを実感する」と、「自ら考え、学びあう」ことは相関関係にあり、わかる喜びを実感させることについても意識して取り組んできた。学習意欲が低下している児童にも、「できた・わかった」という達成感を味わわせ、友だちに認められる機会を持たせることを大切にしてきた中で、「友だちの話をきいてわかった」と学習を振り返る児童も増えてきた。

しかしながら、個人として学びを得られ喜ぶことができても、相互的な学びにはなかなか結び付いていない現状がある。

また、全国学力・学習状況調査の結果を分析すると、主語・述語や接続語を正しく活用することや叙述をもとにして考えを表現すること等に課題がみられた。「わかりあう」ことを目指すために、言葉の特徴や使い方等における基礎的な知識及び技能の定着が必要である。

このような実態から、令和5年度も、令和4年度の「自ら考え、学びあう子どもの育成～わかりあう喜びを実感できる授業づくりを目指して～」を引き続き、研究主題とする。

そのために、まずは、安心して自分の思いや考えを伝えることができる学級づくりを土台としていく。「どうすればよいかわからない」「友だちの言っていることがわからない」「自信がないけど…〇〇と思う」等が言える学級づくりをして、意欲的に学習に向かい、学習を自分事として捉え、考えられるようにしていく。

そして、考えを伝え合う学習活動を、どの教科においても取り入れ、相互に話し合う、ききあう経験を積み重ね、自分の考えを安心して表現できるようにしていく。

また、令和4年度の研究の反省より、言葉で表現する力が十分に付いているとは言えないといった課題が挙がっている。「自分の考えをどのように表現すれば

よいのかわからない」「友だちの言いたいことがわからない」と戸惑う児童が多くいた現状の中で、表現する力や理解する力等を身に付けさせられるようにしていく。

そこで、令和5年度からは、言葉に寄り添い、言語能力を高めることを重視した研究を進めていくために、長きに渡って研究し続けてきた算数科を国語科へと変更し、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を育成していく。

そして、研究主題の「自ら考え、学びあう」子どもたちの姿をより確かなものにしていく。

3 研究内容及び方法（具体的な手立てまで詳しく書いてください）

1 国語科で目指す子どもの姿

『自ら考える姿』

言葉の特質を理解し、適切に使う力を身に付け、言葉によって自分の考えを持つたり、新しい考えを生み出したりする姿。

『学びあう姿』

自分の思いや考え、疑問等を伝えあうことで、学びを確かなものにしたたり、広げたり姿。

『わかりあう喜びを実感する姿』

互いの思いや考え、疑問等を尊重しあいながら、伝えあい、ききあうことで、思いをわかってもらえたり、新しいことに気付いたり、考えを広げたりできることへの喜びを感じる姿。

2 目指す子どもの姿を育むための手立て

（1）自ら考える子どもの育成に向けて

～課題解決に向けて意欲を持ち、表現できるようにするために～

○学習の見通しを持たせる。

- ・何について考えるのか、どんなことをするのか等、子どもたちがめあてを持って学習に取り組めるようにする。
- ・単元のまとまりを見通した授業を組み立てていく。

○国語の知識及び技能を習得させる。

- ・各学年の指導事項を確認し、前後の学年とのつながりを意識した計画を立てる。

○机間指導を通して手立てを打つ。

- ・指示した活動を行っているか、考えを表現することができるか等を確認し、修正したり、ヒントを与えたり、承認・励ましの声をかけたりする。

○基礎学力の定着を図る。

- ・家庭学習・朝学・授業の中で基礎的な問題に繰り返し取り組ませる。

(CBTワークシート・今日の一問, 学Vivaドリル(セット)・「読む・書くワークシート」 「よむYOMUワークシート」 など)

- ・基礎的な知識や既習事項を活用するための視覚支援をする。

国語科の用語・方法・原理・原則等を掲示し、基礎知識が使えるような教室環境に整える。

(2) 学びあう子どもの育成に向けて

～自分の考えを伝えあうことで「学びあう」集団づくりを進めていくために～

○話す・きく力を育てる

- ・相手に伝わるように話すことや相手の考えを受け止めながらきくことを意識させる。

○考えを広げたり、深めたりするきき方を身に付けさせる。

- ・自分の考えと比べながら（自分の考えを持つ時間を取る）きかせる。

- ・聞き手に問いかけることで意識を高めさせる。

「～さんの考えをきいて、どう思った？」など。

- ・きいた上で感じたことを率直に発言できる（つぶやける）雰囲気をつくる。

○目的を持ったペア活動・グループ活動を取り入れる。

- ・「全ての子どもに自分の言葉で話す機会を持たせたい」「自信が持てない子に他の子の考えを確かめさせたい」

○よりよい学びの手段の選択

- ・ノート、プリント、ICT 機器等から、授業のねらいや児童の思考に沿ったものを選択し、児童に活用させる。

3 自ら考え、学びあう子どもを目指すための具体的な取組

(1) 自ら考え、学びあう授業の学習過程モデル

「めあての提示」「発問・課題の提示」「自力解決（考える）」「学びあう」

「まとめ・振り返り」の学習過程の流れを基本として「学びあう」授業づくりを進めていく。

① めあてを知る。

「○○の気持ちの変化を読み取って考えを交流するのか。」

- ・学習活動の見通しを持つ。

② 発問・課題の把握

「どのようにして考えていくの？」

- ・本時の課題をつかむ。
- ・課題解決のための方法について確認をする。

③ 自力解決

「考えてみよう！やってみよう！」

- ・自分の考えを持つ。

・自分の考えをわかりやすく伝えるための言葉を考え表現する。

④ 学びあう

「わかった！ そうなんだ！ そんな考えもあるんだ！」

- ・ペア活動やグループ活動で検討する。
- ・全体で検討する。
- ・学習のねらいに応じて、全体交流・ペア活動やグループ活動を選択する。

⑤ まとめ・振り返り

「わかった！ もっとやってみよう！」

- ・課題に応じたまとめを書く。
- ・国語用語やキーワードなどを使って、めあてに応じた学びの振り返りをする。

(2) 話す・きくに向けての手立て

学習を深めるための取組として、児童が「話すとき」「きくとき」の姿勢を常に意識できるよう、教室に「話すとき」「きくとき」の共通した書式のカードを掲示している。「話すとき」「きくとき」の姿勢として、身体全体を使って「話す」「きく」を意識できるようにしている。

掲示をすることにより、「きいているつもり」や聞き流すような「きく」をなくし、話し手を見てうなずくなど、反応して「きく」ことを意識させていく。

また、児童が「話す」「きく」の姿勢を意識できるようにするためには教師による的確な指示も大切である。何について「話す」のか児童に明確に提示し、焦点化することで聞き手もききやすくなるようにしていく。

(3) ペア活動・グループ活動

「学びあう」集団づくりを進めていく上では、自ら考えたことを友だちに伝えていくことが重要である。本校には、自分の考えを持つことが苦手な子や自分の意見を聞き手に自信を持って伝えることが苦手な子がいる。

そこで、ペア活動やグループ活動を取り入れ、小集団の中で自分の考えを伝えたり、友だちの考えをきいたりする場をつくる。ペア活動やグループ活動を効果的に取り入れていくためには、教師がどのような場面でペア活動やグループ活動をさせるかという場面設定が重要になると考えられる。そこで、子どもたちが目的を持ってペア活動やグループ活動を行っていけるように次の3つの場面を意識して指示していく。

① 自分の考えを説明するとき

② 考えを広げたい、深めたいとき

③ 成果物を確認するとき

目的に応じてペア活動やグループ活動を取り入れることにより、漠然と話しあうのではなく、話しあう意図が明確になり、ペア活動やグループ活動での話しあいが円滑に行えるようにする。

(4) 学びの手段の選択

ICT 機器を活用することで、テキストや写真だけでなく映像も授業に利用できるようになる。そして、子どもたちが授業中に受け取る視覚支援が充実することで、より理解しやすい授業づくりにつないでいくことができる。

例えば、情報収集場面において、画像・動画検索をしたり、音読発表会の動画撮影をして修正箇所を考えたり、プレゼンテーションソフトを活用した発表をしたりすることを目的に活用できる。

また、話しあいの場面では、教師がオクリンクに提出させたものを一覧表示、比較機能等を活用したりして学びを共有・比較検討することができる。

しかし、ICT の使い方によっては、思考が途切れ、学びが深まりにくくなる場合もあるため、子どもにつけたい力を明確にし、そのために最適な学びのツールを選択していくことが必要である。

4 研究を支えるための具体的な内容や方法

「学びあう」ためには、既習事項がある程度定着している等、基礎・基本の定着が必要となる。しかし、本校では基礎・基本の定着に課題があることがわかっている。

学習内容が定着しにくい子のために、既習の用語や定義を教室掲示していく。

また、家庭学習を充実させるために、家庭との連携を取りながら、家庭学習やステップアップ学習（自主学習）の強化に向けた取組を進めていく。

① 家庭学習・生活習慣・読書習慣

学習した内容を定着させることを目的として、音読・漢字・計算を毎日の家庭学習の基本としていく。年度初めには、各家庭へ「家庭学習の手引き」を配付し、保護者の協力も得られるようにしていく。

家庭学習の手引きを作成することで、児童や保護者が具体的なイメージを持つことができるようにし、学校で学習した内容を家庭でも繰り返し取り組むことで、わかりにくかったところがわかるようになったり、家庭学習の時間の目安を意識して学習を行ったりするようにしていきたい。

さらに、学校と家庭との連携の強化を図っていくために、5月、10月、1月には、「家庭学習強化週間」を設定していく。他にも、規則正しい生活習慣、読書習慣の定着と向上を図るため、家庭と連携して取り組んでいく。

実施後は、家庭学習・生活習慣強化週間記録カードの取組結果を教師がとりまとめ、学校だよりや学年だよりで家庭に還元し、さらなる定着と向上につながるようにしていく。

ICT を活用した家庭学習については、1～3年生は週に2日、4～6年生は毎日、クロームブックを持ち帰り、様々な家庭学習に活用していく。主な取組例として、オクリンクのドリルパークを活用して、担任が内容を指定した宿題ドリルに取り組ませていく。すぐに答え合わせができ、やり直しが何度でもできるので、

全て正解になるまでチャレンジする児童も多い。

また、英語のデジタル教科書を活用して発音の確認や例文の練習もさせていきたい。自分が確認したい言葉や文章を何度も繰り返しきいておくことで、授業で友だちとやりとりをする際に、自信を持って取り組めるようになると考える。

オクリンクのカメラ機能を使用した家庭学習では、音読や計算カードの練習の様子を動画で撮影し、提出させていきたい。

こういった内容で楽しみながら課題に取り組むことで、学習する楽しさを身に付けられるようにしていきたい。

② ステップアップ学習（自主学習）

「家庭学習＝与えられた宿題」と思っている児童が多く、「自分から勉強する習慣」が身に付いていないため、家庭での自主的な学習習慣が定着することをねらいとして、ステップアップ学習に取り組ませていく。

年度初めに各家庭へ配付する保護者用の家庭学習の手引きでステップアップ学習について知らせ、家庭での理解と協力を求めていく。児童用の「ステップアップ学習の進め方」については、音読カードに貼り、児童が家庭学習を進める際に、いつでも見て、参考にしたり確認したりできるようにしていく。

3年生以上は、土日には必ず取り組むことにしていく。自分の興味や関心のある事柄を調べる学習などに取り組む児童が増えるように取り組んでいきたい。

4 年間研修計画

学期	日程	内容
1 学期	4月18日(火)	第1回校内研修 ・今年度の研修の方向性 ・人権教育の取組
	5月24日(水)	第2回校内研修 ・国語科における児童の実態・意識して取り組んでいること(各学年より) ・鈴同教実践研究レポート検討
	5月15日～21日	家庭学習強化週間の実施・集約
	5月31日(水)	全国学力調査・みえスタディ自校採点
	6月14日(水)	第3回校内研修 3年生 研究授業事前検討会
	6月28日(水)	第4回校内研修 3年生 研究授業・事後検討会(指導主事 青山先生)
	7月3日～7日	国語アンケートの実施
	7月21・24・25日	夏休み補充学習(9:00～10:00)

	7月25日(火)	人権レポート研修会①(PM)
夏季	8月1日(火)	第5回校内研修(13:30～) 全国学力調査・みえスタディの結果分析と自校の重点課題に対する今後の取組について 親子読書の取組(夏季休業中課題)
2学期	9月11日～17日 10月10日～16日 10月4日(水) 10月10日(火) 11月13日～19日 11月22日(水) 11月29日(水) 12月5日(火) 12月8日(金) 12月11日～15日	生活習慣強化週間 家庭学習強化週間 第6回校内研修 2年生 研究授業事前検討会 第7回校内研修 2年生 研究授業・事後検討会(指導主事 青山先生) 読書・ノーメディア強化週間 1年生 人権部会研授業 第8回校内研修 5年生 研究授業事前検討会 第9回校内研修 5年生 研究授業・事後検討会(指導主事 青山先生) 4年生 国語科部会研授業 国語アンケートの実施
3学期	1月16日(火) 1月22日～28日 1月24日(水) 1月31日(水) 2月12日～18日 2月28日(水)	たんぼぼ学級 研究授業事前検討会 家庭学習強化週間 第10回校内研修 たんぼぼ学級 研究授業・事後検討会(指導主事 青山先生) 人権レポート研修会② 読書・ノーメディア強化週間 第11回 校内研修会 「研修・人権教育のまとめ」